

長門湯本温泉 景観ルール（案）

I . 住宅・店舗・木造旅館に関するルール

1. 屋根形状

屋根の形状は入母屋や切妻、寄棟等の2方向以上に勾配のある屋根とし、十分な軒の出を確保しましょう。

- ・長門湯本温泉の町並みは段階的に変化してきました。明治後期までは茅葺屋根が多く、その後、瓦葺きの格調高い入母屋屋根が普及してきました。屋根の向きは様々で平入りや妻入りで統一された町並みではなく、多様性のある豊かな町並みでした。
- ・現在では、入母屋屋根よりも切妻屋根が主流となってきておりますが、住宅や店舗の94%が勾配屋根です。
- ・軒の出を十分確保することで、建物の外観が美しくなるとともに、木造建築を長持ちさせることができます。
- ・屋根勾配は急勾配にせず、周囲の町並みに調和する屋根勾配としましょう。



明治後期の茅葺屋根



平入りや妻入りが混在するかつての屋根並み



○勾配屋根の木造旅館



○伝統的な入母屋屋根



×急勾配の屋根



×陸屋根

2. 屋根材料

長門湯本温泉の温泉街らしい佇まいの再生が望まれる湯本地区では、石州瓦などに代表される赤瓦の瓦屋根を基本としましょう。三ノ瀬地区・門前地区では、屋根は瓦屋根を基本としましょう。やむをえず、素材を鉄板葺きとする場合や赤瓦以外の色彩の瓦を使う際には、灰色や黒などの落ち着いた色彩を採用しましょう。

- ・長門湯本温泉周辺の山間地の集落などでは、石州瓦に代表される赤瓦の美しい集落景観が残存しています。
- ・長門湯本温泉の屋根の素材は、明治後期までは茅葺、その後、瓦葺きが普及してきました。現在でも約90%が瓦葺き屋根です。
- ・瓦の色はかつては周辺の集落と同様に赤瓦が多く用いられてきましたが、現在では黒瓦や銀黒瓦なども増え、赤瓦の割合は20%程度となっています。



○赤瓦の建物が多い長門湯本温泉周辺の景観



○赤瓦が多いかつての町並み



○湯本地区の現在の赤瓦による屋根並み



現状の三ノ瀬地区の風景



現状の門前地区の風景



現状の湯本地区の風景



×青い瓦屋根

3. 外壁

外壁は、板張りを基本としましょう。材料は、木材や塗壁など、自然素材を積極的に活用しましょう。やむをえず新建材を用いる場合は、濃茶、黒、白、ベージュなど、自然素材と調和する色彩を採用しましょう。

- ・長門湯本温泉の住宅や店舗の約5割が板張り及び木組みと漆喰の外壁です。
- ・木材は将来にわたって確保でき、部分的な補修もできる優れた素材です。また多くの人が長門湯本温泉らしさを感じる材料です。
- ・外壁は、板張りを基本とし、材料は、木材や塗壁など、自然素材を積極的に活用しましょう。
- ・対象地区のうち、湯本地区は都市計画で準防火地域と定められており、外壁や軒裏に防火構造が求められます。
- ・これまで、準防火地域では、外壁はモルタル塗とすることや防火サイディングを活用することが一般的でしたが、近年は設計上の工夫で準防火地域でも外壁に木材を活用することが可能です。



昭和初期の恩湯と枕水の外壁は板張り。軒下部分は真壁木組み現し



かつての小松館の外壁も板張り。真壁木組み現し



○縦板張り和白壁の外壁



○下見板張りと木組みの外壁



○三ノ瀬にみられる木組みとベージュの塗壁の外壁



○木材なら部分的な板の張替えや塗装がしやすい



湯本地区は防火対策のためモルタル塗の外壁等が増加



○格子や付柱により外壁に木質感を出す工夫



○準防火地域で木質感を出す工夫（気仙沼市）



×新建材の外壁



×トタンのサビた外壁



×異なる材料のちぐはぐな補修



×派手な色彩の外壁

4. 開口部

湯本地区の音信川沿いの建物の多くは、川を楽しむため、川に対して開放的な設えとし、2階以上に連続した開口部を設けています。このような川を楽しむ文化とそれが生み出す町並みを継承しましょう。

- ・音信川がまちの中央を流れ、2階以上の川沿いの窓から、川の流れを楽しむことは長門湯本温泉ならではの魅力です。
- ・このような魅力を最大限活用してきた結果として、2階以上の音信川に向けた水平に連続する開口部が、長門湯本温泉の町並みの特徴となっています。



○水平に連続する開口部



○音信川に対して開放的な旅館の設え



○俵山温泉にも共通する温泉街の魅力



音信川の眺望を楽しめる連続窓があった昔の大谷屋



町家では2階の連続窓には格子が設置される（萩市）



川の眺めを楽しむ文化は今でも長門湯本温泉の魅力（伊勢市）

5. 開口部の意匠

開口部を構成する、戸袋、窓枠、手摺、高欄などについて積極的に木質化を図りましょう。また、開口部の上部には霜除け庇を設置しましょう。

開口部の建具は、木製建具を積極的に活用しましょう。防火性能や断熱気密性能、コストの関係から、やむをえずアルミサッシとする場合は、黒や濃茶などの落ち着いた色彩としましょう。また、網戸の色彩にも配慮しましょう。

- ・長門湯本温泉では、開口部は町並みを構成する非常に重要な要素となっています。
- ・開口部は、建具、窓枠、戸袋、手摺、高欄、霜除け庇などで構成されており、これらの要素を木質化することは、町並みに潤いを与えます。
- ・川に対する開放的な設えと安全性を両立するため、開口部には高欄や手摺が設置されています。これらの高欄や手摺の意匠は、大工さんの腕の見せ所でもあり、それが町並みの豊かさを生み出してきました。



○昔の六角堂の美しい高欄



○木製の高欄や戸袋



○アルミサッシで連続窓を実現した例



○防火の制限のない高欄や木製の手摺を推奨しましょう（俵山温泉）



○アルミサッシを活用しつつ手摺や窓枠で木質感を演出（気仙沼市）



○開口部を保護する霜除け庇

6. 下屋庇・オーニング・看板建築

老朽化した新建材の看板を外し、修景を図りましょう。また、下屋庇やオーニングを設置し、町並みの連続性を生み出しましょう。

- ・建物を覆う新建材の看板建築やビニール製のテントなどが、時間の経過により老朽化しています。老朽化した新建材の看板を外し、修景を図りましょう。
- ・商店の外壁も木材や塗壁などの経年美化する自然素材を積極的に活用することが大切です。
- ・また、町並みの連続性を生み出し、商店として人を迎える構えとして、下屋庇やオーニングを設置することが考えられます。



下屋庇で連続性を生み出していたかつての商店



×劣化した建物を覆う新建材の看板建築



×看板撤去前（有田）



○看板撤去後（有田）



○下屋庇で町並みの連続感を生み出す（輪島）



○下屋庇により商店として人を迎える構え（俵山）



×ビニール製のテント看板



○布製のオーニング

7. シャッター

夜もそぞろ歩きのできる温泉街を目指すため、鎧戸シャッターは極力避けましょう。

- ・「シャッター通り商店街」という言葉に代表されるように、鎧戸シャッターは寂れた町や閉鎖的な町という印象を与えます。
- ・夜もそぞろ歩きのできる温泉街を目指すため、鎧戸シャッターは極力避けましょう。
- ・防犯対策として、開口部への木製格子の設置、セキュリティサービスの活用など、防犯と景観の両立を目指しましょう。



×鎧戸シャッター



○1階開口部に木製格子を設置し防犯性を高める



○ショーウィンドウの設置や店舗が見えやすい木製建具の配慮（有田）



○夜もあたたかい灯りでおもてなし（松本）

8. 設備機器

エアコン室外機や自動販売機などの設備機器の見え方に配慮しましょう。

- ・露出したエアコン室外機、プロパンガスボンベ、給湯器、自動販売機などは町並みを乱します。
- ・設備機器は通りから直接見えない位置に設置しましょう。やむをえず通りから直接見える場所に設置する場合は、木箱で覆う、格子で目隠しするなど工夫しましょう。



○木箱で覆った自動販売機
(高山)



○木箱で囲んだガスボンベ
と消火栓の木箱 (高山)



○違和感のない室外機(高山)



○景観に配慮し木箱で覆わ
れているガスボンベ



×露出した設備機器

9. サイン・看板

看板を設置する場合は、町並みを乱さないよう控え目な看板とし、設置個所は極力最小限にしましょう。また、看板はデザインされたおしゃれな看板にしましょう。

- ・サインや看板には様々な種類がありますが、車のスピードでも視認できるような、大きな看板（壁面広告・屋上広告・ポールサイン・建植サイン・看板建築など）は町並みを乱します。
- ・一方、人が歩いて視認できるようなサインは、控え目な看板（壁面看板・袖看板・平置き看板・突き出し看板・スタンド看板など）でも構いません。しかし、視認する時間が長くなるため、そのディテールやデザインが重要となります。
- ・看板を設置する場合は、町並みを乱さないよう、控え目な看板とし、設置個所は極力最小限にしましょう。また、看板はデザインされたおしゃれな看板にしましょう。
- ・イベント時などの賑わいを演出するための、のれんやのぼりなどもデザインに配慮しましょう。
- ・夜間も看板が読めるように看板をライトアップすることは問題ありませんが、電飾看板などは避けましょう。
- ・既存のネオン看板については、文脈の継承の観点から再利用することが考えられますが、新たにネオン看板を増設するのは避けましょう。



○底内のおしゃれな袖看板
(古川)



○平置き看板と袖看板



○焼き物の看板とライト
アップ



×電飾看板



×建植サイン



×ポールサイン



ネオンサイン (要検討)

10. 駐車場・車庫

駐車している車が町並みに露出しないように、生垣や板塀で隠しましょう。また、大規模な駐車場は積極的に樹木を植えましょう。車庫の外壁は板張りを推奨しましょう。開口部には木製扉や格子戸を設置し、内部が見えないように配慮しましょう。やむをえず、シャッターとする場合は濃茶などの色彩としましょう。屋根は色彩に配慮しましょう。

- ・ 駐車場や駐車している車は、町並みの連続感を損ない、自然風景にも馴染みにくい要素です。そのため極力、駐車場や駐車している車が露出しないように配慮することが大切です。
- ・ 旅館は比較的大規模な駐車場を確保する必要があります。既に、駐車場を目立たない場所に設置する、生垣等で隠す、地下駐車場とするなど、駐車場を露出させない様々な配慮がなされています。
- ・ 納屋と一体となった車庫や板張りの車庫など、町並みに配慮している例も多くみられます。
- ・ 車庫も住まいや商店同様に、町並みを構成する大切な要素です。外壁は板張りを推奨しましょう。
- ・ 開口部には木製扉や格子戸を設置し、内部が見えないように配慮しましょう。やむをえず、シャッターやその他の外壁材を使う場合は、濃茶などの落ち着いた色彩としましょう。
- ・ 屋根は色彩に配慮しましょう。



○納屋と一体の駐車場



○板張り・瓦屋根の車庫



○板張り・瓦屋根の車庫



○生垣で駐車場を隠す



×町並みに露出した駐車場



○生け垣などで駐車場が露出しない配慮



○木製扉のある車庫を建物内に設置



×町並みに露出した駐車場



○通り沿いに植栽を設け、駐車場を露出しない配慮



○木製扉のある車庫を建物内に設置



×町並みに露出した駐車場



○門を設けて、駐車場を露出しない配慮



○シャッターを茶色にする

11. 付属屋

付属屋の外壁は板張りを推奨しましょう。やむをえず、その他の素材を採用する場合は、濃茶や黒、グレーなどの目立たない色彩としましょう。屋根は色彩に配慮しましょう。

- ・長門湯本温泉には、土蔵、物置、登り窯、水車小屋、車庫など様々な付属屋があります。
- ・対象地区の建物の約半数を占めるのが住宅や店舗ですが、それに次いで多いのが付属屋で、約3割に上ります。
- ・住宅や店舗などと同様に付属屋も町並みに与える影響が大きく、修景することによる効果も高い要素です。
- ・特に三ノ瀬地区では、水車小屋や土蔵、登り窯、物置などの様々な付属屋があり、これら付属屋が景観に与える影響が大きいです。また、萩焼に用いる薪が積まれた景観はとても魅力的で、地区の重要な景観と用途となっています。
- ・付属屋の外壁は板張りを推奨しましょう。やむをえず、その他の素材を採用する場合は、濃茶や黒、グレーなどの目立たない色彩としましょう。
- ・屋根は色彩に配慮しましょう。
- ・土蔵についてはその維持継承を図りましょう。



○川沿いに残る水車小屋



○薪が積まれた景観



○登り窯のある景観



○川沿いに残る水車小屋



○土蔵



○三ノ瀬らしい窯元の付属屋



○三ノ瀬らしい登り窯



×ビニール製の付属屋



×既製品のカーポート



×既製品の物置

12. 塀垣・門・石積擁壁・前庭

湯本地区、門前地区、三ノ瀬地区のそれぞれの地区の町並みの異なる魅力を生み出すのが塀垣、門、石積擁壁、前庭の構成です。各地区の魅力や特徴を維持・継承していきましょう。

駐車場や空き地などによって町並みの連続性が途切れている個所には、積極的に塀垣を設置し、町並みの連続性を再生しましょう。

- ・門前地区は、石塀とその背後にある前庭が生み出す町並みが特徴的です。
- ・三ノ瀬地区は、石積みや生垣、門、美しい庭園などが生み出す豊かな町並みが特徴です。
- ・湯本地区の音信川沿いの建物は、商店などは通りに連続し、旅館や住宅は板塀や石塀、門、前庭などで連続性のある町並みを形成しています。各地区の魅力や特徴を維持・継承していきましょう。
- ・塀や垣根の高さは圧迫感を与えない高さとし、背後の緑を感じられること、板塀のデザインは背後の庭が隙間から垣間見られる状況を生み出すことが豊かさにつながります。
- ・駐車場や空き地などによって、町並みの連続性が途切れている個所には、積極的に塀垣を設置しましょう。
- ・新たに設置する際は、金網フェンスやブロック塀は避けましょう。



門前地区：石塀と前庭の町並み



三ノ瀬地区：石積と生垣、美しい庭園の町並み



湯本地区：音信川沿いに連続する建物と塀垣、前庭等

湯本地区



○前庭と門による町並み形成



○石塀と門と前庭による町並み形成



○前庭による町並み形成



○板塀と前庭による町並み形成

門前地区



○石塀と前庭による町並み形成



○石塀と前庭による町並み形成



○石塀と前庭による町並み形成



○石塀と前庭による町並み形成

三ノ瀬地区



○美しい塀と庭園による町並み形成



○生垣や美しい庭園による町並み形成



○生垣や美しい庭園による町並み形成



○石積みや生垣、美しい庭園による町並み形成



×金網フェンス



×単調で圧迫感のあるブロック塀

II. 夜間景観に関するルール

“訪れたくなる風景” “散策する楽しさ” “住まう誇り” につながる「長門湯本らしい夜間景観」のために以下の6つの項目に対して守るべき目標を設定します。

- ①あかりの色（色温度）・・・・・・・・温泉地らしさのために
- ②あかりの点灯時間・・・・・・・・安全安心を強化
- ③豊かな緑を活かすルール・・・・・・・・誰もが感じる美しさ心地よさと安心感
- ④まちの顔づくり・・・・・・・・長門湯本だとひとめでわかる夜景をつくる
- ⑤まちのシンボルや特徴を活かす・・・町全体をミュージアムへ
- ⑥サイン/看板の照明・・・・・・上質な観光地にふさわしいデザインへ

1. あかりの色

まちのあかりの色は、電球色にしましょう。

- ・黄色く、暖かみのある光の色を“電球色”と呼びます。
- ・温泉街や住宅地では、寒々しい白色の光よりも、情緒的で落ち着きのある電球色が似合います。
- ・蛍光灯にもLED電球にも電球色があります、



← 右が電球色

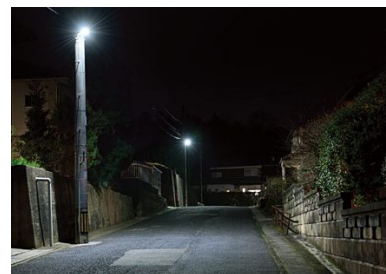
「電球色」「2700K~3000K」と書いてあります。



×白色のさびしい旅館街



×白色の旅館宴会場



×白い防犯灯が目立つ住宅街



○電球色のおちついた旅館街



○電球色の上質感のある旅館宴会場



○電球色のあたたかな住宅街

2. あかりの点灯時間

門灯や軒先の提灯などの外部の明かりや、道に面した窓際やお店のあかりは22時まで点灯しましょう。

- ・夜のそぞろ歩きが楽しく、暗がりのない安全安心な街並みをつくりましょう。
 - ・タイマーを付ければ、自動で点灯・消灯をすることも可能になります。
- また光源がLEDであれば、点灯時間を長くしても電気代は僅かにしかかかりません。
(7WのLED電球1つあたり、5時間点灯で ひと月あたり28円程度です。)



× 街灯、建物の漏れ光もなく歩行に不安のある道



○建物の漏れ光や軒先の提灯が点いており安心感と情緒のある通り(天橋立)



○建物2階の灯りは、閉店後も点灯している(倉敷)

3. 豊かな緑を活かすルール

道や広場に面した樹木は、できるだけライトアップしましょう。

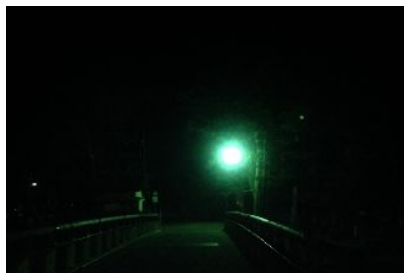
- ・昼間は癒しを与えてくれる樹木ですが、夜になると影になり暗がりをつくってしまいます。道や広場から見える庭木をライトアップすることで、安心感と心地よさをまちにもたらしめます。
- ・参道や散策路など民間敷地の緑がまちの景観をつくっている場合も多いので、わずかでも樹木のライトアップができれば、大きな安心感のある貴重なまちの風景となります。
- ・ライトアップも、暖かみのある電球色のあかりで行いましょう。



×樹木が暗がりをつくっている



○ライトアップで樹木が主役になった旅館の中庭



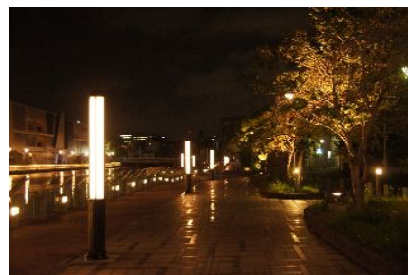
×松林があるが、真っ暗で何も見えない



○立派な松がライトアップされ見えるようになり、夜の散策ができるようになった。



×街灯があるが、樹木が影になっており暗いプロムナード



○樹木がライトアップされ、安心感のある歩いて楽しいプロムナード

4. まちの顔づくり

軒先に長門湯本温泉オリジナルデザインの提灯をつけましょう。

- ・共通のデザインの提灯を街中の軒先につけることで、「ひとめで長門湯本だとわかる風景」「ここでしか見れない街並み」をつくることができます。
- ・長門湯本温泉のオリジナルデザインの提灯を掲げ、情緒的な温泉街の夜景づくりを行いましょう。



○通り毎に異なる、オリジナル提灯が情緒的な雰囲気をつくる。



○軒先にオリジナル提灯をつけたイメージ、オリジナル提灯デザイン案



5. まちのシンボルや特徴を活かす

まちのシンボルをライトアップしましょう。

- ・大寧寺や住吉神社のような由緒ある寺社仏閣、三ノ瀬の登り窯、街の中に多く見られる石垣や橋などは長門湯本温泉ならではの大切な景観資源です。また、足湯・源泉などの施設、旧恩湯のネオンなども、新たにつくられる恩湯施設などのランドマークとともに、まちの物語を語るシンボルです。これらのシンボルの演出やランドマークのライトアップによって、今まで以上にまちの記憶を大切にしたい・住みたい長門湯本に育てていきましょう。



× 暗闇で何があるか夜間にはわからなくなっている



○ 住吉神社の階段のライトアップ



○ お地蔵様のこみち(大寧寺参道)のライトアップイメージ



○ 石垣のライトアップイメージ

6. サイン・看板の照明

下記のような看板は、温泉地や住宅地に相応しくないもので、できれば改善しましょう。

○眩しすぎる ○派手な色彩 ○速い速度で動く・点滅する ○大きな音がでる

- ・白すぎる内照式の看板は、落ち着いた温泉地には似合いません。既存の看板がある場合は眩しさが夜間景観阻害の原因となる場合もあるので、買い替えなどのタイミングで電球色に変えましょう。
- ・切文字（箱文字）型のバックライト文字や、外から照らす板状の看板は、上質な印象や和風のまちなみをつくれます。
- ・提灯や行灯のような和風のものは、内照式でも情緒があるため、推奨されます。



○ 切り文字の看板



○ 外照式の看板、提灯の看板



○ 行灯の看板



× 派手な内照式看板・原色のネオン



× 眩しく、派手な色、速い動き、大きな音の出る看板（デジタルサイネージ）



× 派手な色、速い動きのある看板